

1285

特67

439

年中大祭心得書

全

〔非賣品〕

014514-000-0

特67-439

年中大祭心得書

加藤 重恵 / 編

M25

ABB-0892



抑我カ大日本帝國ハ神ノ開闢シ賜ヘル國ナリ此ノ衣食
ハ神ノ賜モノナリ此ノ臣民ハ神ノ後胤ナリ故ニ國家ノ
鎮護臣民ノ主宰トシ天神ノ詔命ヲ以テ 天孫ヲ此土
ニ降シ給ヘルナリ然レハ則臣民ハ神ノ後胤ニシテ神ノ
開闢シ賜ヘル國ニ住ミ神ノ貽傳ノ衣食ニ生活シ萬世一
系 天皇陛下ノ保護ニ安居ス依之神祭ヲ豊ニシ帝室
ニ奉事シテ大日本帝國ヲ愛スルハ億兆臣民ノ本分ナリ
故ニ年中大祭日ハ勿論毎朝神祇ヲ拜禮シ寶祚ノ無窮ヲ
奉祝スヘシト云爾

明治廿五年十一月

編者誌

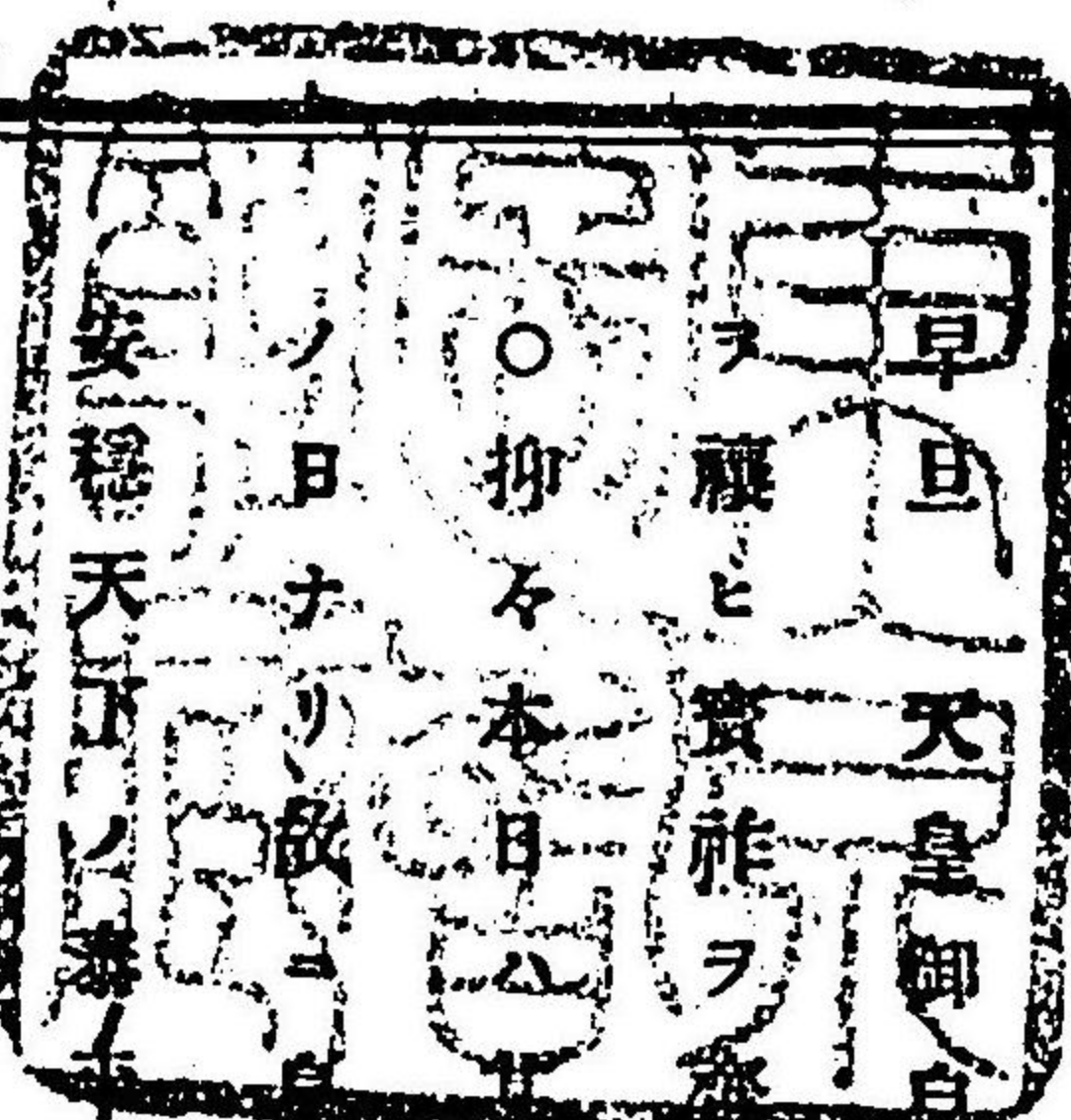
○明治八年八月十二日敎部省達第三十四號

府 縣



官國幣社祭式本年四月中式部寮ヨリ頒布相成候處府縣社以下ニ於テモ
右ヲ準據トシ各社適宜ニ祭典執行爲致候儀ト可心得此旨相違候事

○四方拜 一月一日



早良 天皇御白
ラ庭上ニ出御有リテ天地四方北斗山陵ヲ拜シ給ヒ年災
ヲ禳ヒ寶祚ヲ永
ヒ給ヘル儀ナリ(恒祀事略)
○抑々本日ハ
年ノ歳首ニシテ百事万端此日ヨリ改ム最モ尊重スヘキ
上御親ラ天神地祇ヲ拜禮シ賜ヒ天下臣民ノ爲ニ年中ノ
安穩天下ノ泰平
ヲ禱リ給フコトナレハ臣民タルモノハ厚ク此聖意ノ有
ル處ヲ謹ミ各互ニ新年ヲ賀シ産土神社ハ勿論天地ノ神明ヲ拜シ又皇
上
ヲ拜シ後ニ我祖先ヲモ拜シテ寶祚無窮國家安全家族ノ繁榮ヲ祈ルヘキ
事ナリ

拜 辭

掛卷母 恐伎 何々神乃御前爾 恐美 恐美母 白佐入 新伎年乃新伎月乃
新伎日乃朝日乃 豊榮登爾年乃始乃 賀詞乎竟奉 良久止 白須

○元始祭

一月三日

本日 宮中ニ於テ賢所並天神地祇御歷代皇靈ヲ皇上御親祭在ラセラル
是レ天津日嗣ノ本始ヲ祝シテ歳首ニ祀リ給フ義ナルヲ以テ元始祭ト稱
ス因テ地方ニ於テモ此大典ヲ遵奉シ官社以下祭祀ヲ修シ官員及人民悉
シ參拜スヘシ(壬申十一月式部寮公達及神社祭式)

○孝明天皇

一月三十日

本日 孝明天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ御親祭在セラレ又勅使ヲ
山陵ニ差遣シ幣帛ヲ奉ツラル因テ各神社ニ於テモ遙拜スヘシ(神社祭式)
○地方ハ鄉村氏神々職遙拜式申渡シ氏子ノ者ヲシテ山城ノ方ニ向ヒ遙
拜セシムヘシ(壬申十一月式部寮公達)

○孝明天皇ハ畏クモ今上天皇ノ大御父ニ座々テ天資英邁夙ニ皇室ノ式
微ヲ嘆カセ給ヒシヨリ大鎮強藩王事ニ勤勞シテ王政復古ノ基ヲ開カセ
給ヒ又列祖ノ山陵ヲ修復シテ祭祀シ給ヘルヨリ孝明天皇ト御謚シ奉ル
トテ承ル然レハ天皇ノ御親政ヲ受クル臣民ハ厚ク高德ヲ欽ミ各遙拜シ
奉ルヘキナリ

拜 辭

(神社祭式)

掛卷母 恐伎 後月輪 東山陵乃 大前平 遙爾 拜美 奉良久止 白須

○紀元節

二月十一日

本日 神武天皇御即位日ニ當ルヲ以テ紀元節ト稱ス此日宮中ニ於テ
天皇御親祭在セラル因テ各神社ニ於テ遙拜スヘシ(神社祭式)

○神武天皇御即位紀元ノ日云々每歲御祭典遙拜在ラセラル依テ御趣意
ヲ遵奉シ上下一同遙拜スヘシ(壬申十一月式部寮公達)

○神武天皇ハ御親ヲ六師ヲ統率シテ天下ヲ鎮定シ給ヒ都ヲ大和國橿原

ニ定メ萬民ヲ撫育シ給ヘル中興ノ天皇ニ坐セハ紀元ヲ則天皇ノ即位ノ
初年ヨリ起シ今年ニ至ル二千五百五十二年ナリ此日ハ登極ノ日ニシテ
正月元日ヲ當ル實ニ臣民ノ一族安穩ヲ得テ至治ノ聖澤ニ浴スルハ天皇
ノ高德ニ因ル然レハ天下ノ臣民普ク遙拜シ奉ルヘキコトナリ

拜 辭 (神社祭式)

掛卷母 恐伎 畝傍 檣原 宮爾 天下 知食 志々 天皇 乃 大靈 乃 大前 乎
遙爾 拜美 奉良久 止白 寸

○ 祈年祭

二月四日 太政官廳ニ於テ伊勢神宮々中皇靈等ノ幣帛ヲ使ニ班ナテ發
遣セシム次テ各地方ノ官幣社國幣社へ幣帛ヲ班ツ各地到着ノ後日ヲ撰
ヒテ祭祀スヘシ但古例ヲ存スル社ハ其日ニヨルヘシ(神社祭式)

○ 此祭ハ天神社地祇社へ幣帛ヲ奉リテ天下萬民ノ爲ニ風雨水旱蝗螟等
ノ災無ク氣候和順ニシテ百穀成熟セム事ヲ祈リ賜フ御祭ナリ因テ縣郷

村ニ於テモ古來ノ祭日ヲ以テ鄭重ニ祭祀スヘキコトナリ

○ 祝詞ハ(神社祭式)ニ準據スベシ

祈 年 祭 神 璽

半紙一枚ニテ調製ス各
氏子へ頒布スヘキ札

○ 春季皇靈祭

春分日

明治十一年六月五日 太政官達第廿二號

官 院 省
使 府 縣

綏靖天皇以下後櫻町天皇迄御歷代御式年御正辰祭典被廢更ニ春秋二季
祭被置 神武天皇ヲ御正席トシ先帝迄御歷代並ニ后妃以下皇親御合祭
被執行候條此旨相達候事

但神武天皇及後桃園天皇以下御近陵御式年御正辰並ニ其后妃皇親御
配享ノ儀ハ猶從前ノ通被執行候事

當日ハ各々神社ニ詣リ遙拜スヘキハ勿論互ニ神徳ヲ語り臣民祖先以來御歴代天皇ノ御厚澤ニ沐浴シ今日マテ野蠻ノ異類ト群ヲ爲スコトヲ免レ文明開化ノ至治ニ浴シテ安居スルコトヲ得ルハ皆是皇宗ヲ始奉リ御歴代天皇ノ御高德ニ由ル所以ヲ深ク感戴シ其万分ノ一ヲモ報答セ奉ラムコトヲ念ハサハ可クムヤ

拜 辭 (神社祭式)

掛卷母 恐伎 畝傍 標原 宮爾 天下 知食 志々 天皇 手 始奉 利御 代御 代乃 天皇 乃 大靈 乃 大前 平 遙爾 拜美 奉良 久止 白寸

○神武天皇 四月三日

本日 神武天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ御親祭在ラセラレ又勅使ヲ山陵ニ差遣シ幣帛ヲ奉ラル因テ各神社ニ於テモ遙拜スヘシ(神社祭式)
○明治四年三月七日太政官達ニ神武天皇御祭典ノ儀海内一同遵行被仰出候條毎年三月十一日各地方官ニ於テ遙拜式可執行事ト有ル如ク

天皇ノ敕旨ヲ奉體シテ各神社或ハ清キ所ヲ撰ヒ遙拜所ヲ設ケテ各コレニ詣リ大和國畝傍山東北山陵ヲ遙拜シ奉ルヘキナリ

拜 辭 (神社祭式)

掛卷母 恐伎 畝傍 山東北山陵 乃 大前 平 遙爾 拜美 奉良 久止 白寸

○大 祓 六月三十日

明治四年六月二十五日 太政官布告

大祓ノ儀從前六月祓或ハ夏越神事ト稱シ執行來候處全ク後世一社ノ神事ト相心得本義ヲ失ヒ候ニ付今般齋儀御再興被爲在候間追々天下一般修行可致様被仰出候事

○大祓ノ儀ニ付テハ明治八年四月廿四日式部寮回達神社祭式ノ通六月三十日十二月三十一日此執行云々即同年六月廿二日千葉縣乙第百號達ニ詳ナリ

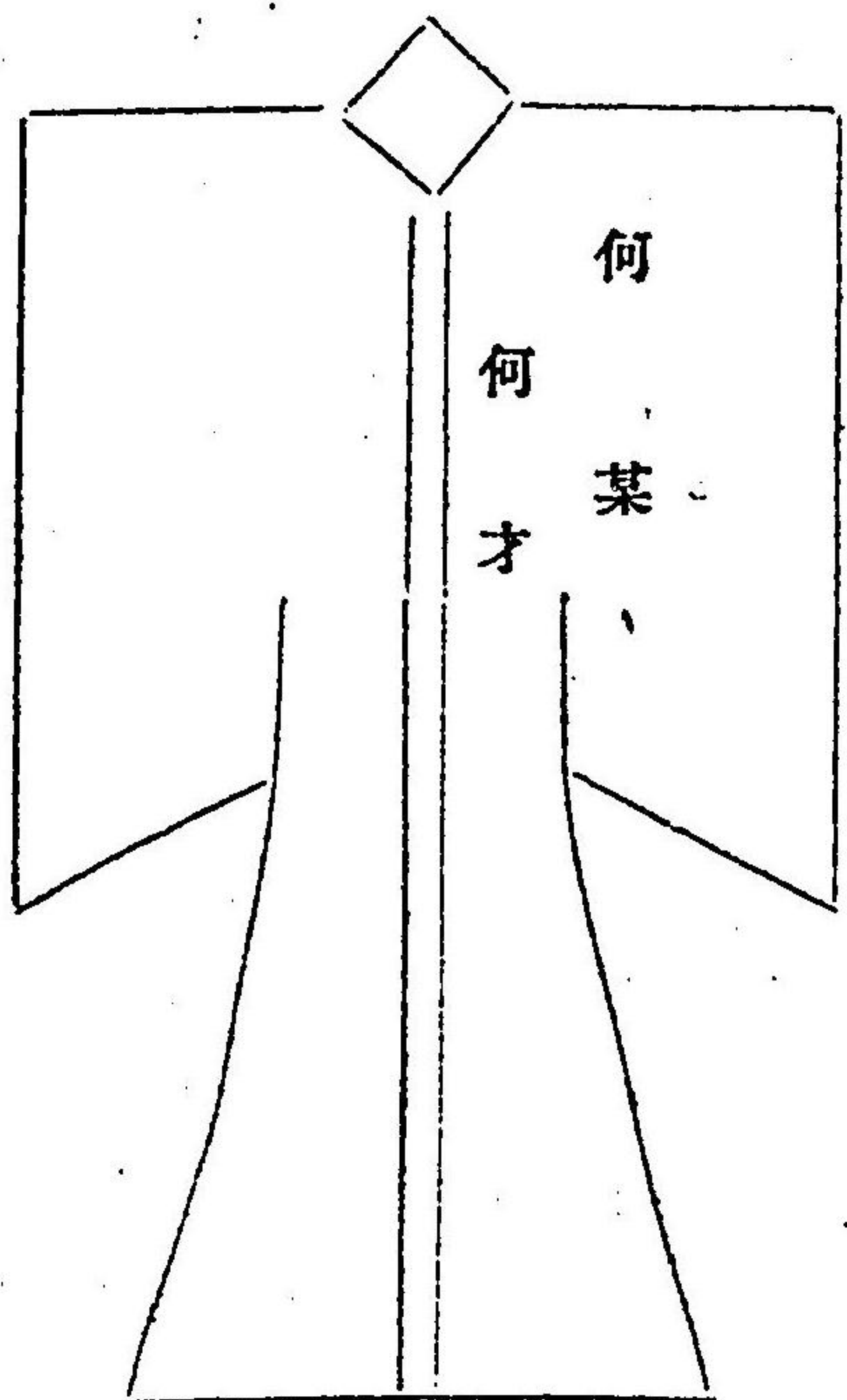
○天下人民ノ罪穢ヲ祓處ノ大神ニ祈請テ祓清メ一切ノ禍害有シメズト

ノ御神事ナリ (恆祀事略)

○抑々大祓ハ天下臣民公衆ノ大祓ナリ昔ハ各自ニモ常ニ祓セシト云ヘリ
リ情テ外形的ノ罪惡ハ法律ノ糾ス處ナリ内形的即チ心裡上ノ罪惡ニ到
リテハ法律ノ及ハザル處ナリ然レトモ等シク罪惡ニシテ其罰ヲ脱スヘ
キ理ナシ其隱微的ノ罪科ハ神明幽鑒必ス之ヲ糾シ給ヘルナリ故ニ
天祖大祓ノ式ヲ此土ニ降シテ毎年兩度大祓シテ天下公衆ノ隱微的ノ罪
科ヲ祓除シ又祓ニ罪ト穢トノ差別ハアレトモ一ツニ是チ祓ト唱フルナ
リ先罪穢ヲ懷キテ神拜スルモ神ノ受玉ハヲサル理ハ濁水ニ月ノ正シク
移ラサルカ如キナリ此罪穢ハ自身識ラス知ラズ犯スコトモ有レバ輕忽
ニ思過サス必ス行フヘキ事ナリ

○

大祓前ニ各其家ノ人數ダケ此ノ人形ヲ受ケ置キ姓名並ニ年ヲ書キ
大祓ノ當日惣代人ニ依頼スルカ又ハ自身持參スルコトノス



○秋季皇靈祭

秋分日

春季皇靈祭ニ同シ

○神嘗祭

十月十七日

本日 宮中ニ於テ御遙拜且賢所御親祭在セラレ又勅使ヲ神宮ニ差遣シ
幣帛ヲ奉ラル因テ官員ニ於テモ該廟或ハ最寄神社ニテ遙拜スヘシ(神社祭式)

拜 辭

(神社祭式)

掛卷母 恐伎伊勢乃 神宮乃 大前乎 遙爾拜美 奉良久止白寸

○天長節 十一月三日

本日 天皇御誕辰ナルヲ以テ各地ニ於テ萬壽無疆ヲ奉祝スヘシ(神社祭式)
 ○畏クモ 聖上御降臨ノ日ヲ祝シ奉リテ萬壽疆リ無ク實祚ノ窮リナキ
 ハ天ト長ク地ト久シキ意ニテ天長節トハ號ケ給ヒシナリ古 光仁天皇
 ノ朝ニ天長節アリ(續日本紀光仁天皇六年九月勅シテ曰ク十月十三日ハ是朕生日ナリ此辰ニ至ル
 毎ニ云々毎年此日ニハ經轉屠ヲ斷テ内外百官ニ醢宴ヲ賜フ此日ヲ天長節ト號クト云ヘリ)其後ハ寒ヤ
 トシテ聞ク處ナシ明治ノ始ノ慶典ヲ舉ケテ此 聖節ヲ祝セシナリ今日
 聖澤ニ浴スル者貴賤トナク祝シ奉ルヘキコトナリ(祝詞ハ明治八年六月千葉縣
 乙第百號達ニ準據スヘシ)

○新嘗祭 十一月廿三日

神社祭式ニ本月十日太政官廳ニ於テ幣帛ヲ班ツ其式總テ祈年祭ニ同シ
 トアリ即チ伊勢神宮宮中皇靈等ノ幣帛ヲ使ニ班チテ發遣セシム次テ各
 地方ノ官幣社國幣社ニ幣帛ヲ班ツ各地到着ノ後日ヲ撰ヒテ祭祀ス可シ

但古例ヲ存スル社ハ其日ニ因ルヘントナリ

○戊辰(明治元年)ノ冬御告諭ニ新嘗祭ノ儀ハ先ツ皇國ノ稻穀ハ 天照大
 神ノ顯見蒼生ノ食テ活ヘキモノナリト詔命アリテ天上ノ狹田長田ニ殖
 シメ給ヒシ稻ヲ皇孫降臨ノ時ニ下シ給ヘルモノナレハ其神恩ヲ忘レ給
 ハズ報賽ノ大典ナルヲ以テ神武天皇以來世々ノ天皇十一月申ノ卯ノ日
 ニ當年ノ新穀ヲ天神地祇ニ供セラル、重祀ニテ數千年來行ハセラレシ
 御祭儀ナリ諸般ノ事中世以來他邦ノ風儀モ雜レトモ神事ノミハ上古ノ
 マヽニテ聊モ雜駁コレナキ純粹ノ古遺ナリ十一月朔日ヨリ散齋致齋ノ
 御齋戒アラセラレ萬民御撫恤ノ爲ニ御祭在セラル、ハ誠ニ以テ難有御
 儀ナリ士庶人ニ至ルマテ一意ニ神祇ヲ尊敬スヘキナリ昔新嘗ノ日ハ天
 下一同ニ戸ヲ閉テ齋戒セシコトハ古歌ニモ見エタリ今ハ其子細モ存セ
 ス徒ニ此日ヲ閑過ス故ニ告諭ニ及ヘリ今各々ノ毎日食ス所ノ米穀ハ
 天祖ノ賜モノナルコトヲ知り御國恩ノ辱キヲ辨ヘ公卿大夫士庶人ニ至

ルマテ萬ノ相心得本月ハ深齋シテ神祇ヲ拜シ五穀豐熟天下泰平ヲ祈ル
ヘキナリ寒郷僻邑ノ人民用ヲ廣リ晴ヲ禱モ必ス感應アリ况ヤ天下一同
ニ至尊ノ御仁旨ヲ體認シ奉リ共ニ祈請スルニ於テハ神祇ノ冥感必ス
速ナルヘキ事顯然タリ

○祈年ノ御祭ニ因リ其年ノ五穀豐熟シテ天下平穩ナルヲ以テ其奉賽ノ
爲メ 皇上御親ヲ新穀ノ初穂ヲ以テ 天照大御神ヲ始奉リ天神地祇ヲ
奉祭シ賜ヒ又伊勢神宮ヘハ奉幣ノ勅使ヲ立賜フ故ニ新嘗祭ト云フ則祈
年祭ニ相對スル御祭典ナリ云々(神拜略記)

○大 祓

十二月三十一日

祓式ハ六月大祓ニ同シ

右祭日並ニ祝日ニハ毎月必ス國旗ヲ掲ケ祝意ヲ表發スヘキハ勿論ナリ

附タリ 毎朝神拜式

先ツ神前ニ向ヒ一拜シ后拜辭次ニ手ヲ二ツ拍ツヘシ以下准之

身會岐祓詞

掛卷母 畏伎 祓處乃 大神等 諸乃 狂事罪穢手 祓比 給比 清米給邊止 畏美
畏美母 白須

天神地祇祝詞

掛卷母 畏伎 天神地祇乃 御前爾 畏美 畏美母 白左久 天下泰平爾 天都日嗣悠久
公民安計久 五穀吉熟里 願乞事平敏 成志米 夜乃守日乃 守爾護 幸閉賜閉止 畏美
畏美母 白須

産土神拜辭

此里乎 總守給布産土乃 大神乃 御前乎 慎美 敬比 夜乃守日乃 守爾護 幸閉 給閉止
畏美 畏美母 拜美 奉留

先祖拜辭

遠都御祖乃 靈代々乃 祖等 親族 家族乃 靈等乃 御前乎 慎美 敬比 家爾母 身爾母 禍
事不令在夜乃 守日乃 守爾護 幸閉 給閉止 畏美 畏美母 拜美 奉留

諸神略拜辭

掛卷母畏伎何々神乃御前乎慎美敬比畏美畏美母拜美奉留

年中大祭心得書大尾

明治二十五年十一月十五日印刷
明治二十五年十一月十六日出版

編輯兼
發行者

千葉縣長柄郡茂原町長谷百貳拾七番地
加藤重惠

印刷者

千葉縣長柄郡茂原町茂原百七拾六番地
山根岩三郎

